

# 芳賀隆さん栽培の乾シイタケ 農林水産大臣賞を受賞

6月8日、ことしで50回目の開催となった全農乾椎茸品評会審査会で、荒川地区でシイタケを栽培・生産している芳賀隆さん(38才)が「農林水産大臣賞」を受賞しました。これは全国の乾シイタケの出来を競うもので、ことしは全国から608本が出品。その中から大きさや厚みによっていくつかの規格に分けられて審査されます。芳賀さんが受賞した



芳賀さんが栽培したシイタケ  
(写真は生シイタケ)

肉厚の乾シイタケは、傘が割れて白い身を見せませんが、それを出すためには水の加減が非常に難しいとのこと。また、ハウス栽培が効果的で、山にあるほど場からほど木をビニルハウスへ移動させ、また山に戻しています。

シイタケは、大葉厚肉という規格で、かさが大きく、厚みがあります。審査会で重視されるのは、大きさと色味。約2万本のほど木を移動させるのに2〜3カ月かかるそうで、受賞の裏側には、大変な努力がありました。ことしで2年連続受賞となり、大葉厚肉以外の規格でも非常に高い評価を受けている芳賀さん。今後の抱負について「10年間の受賞で名人と認定されます。そこまでは出品を続けていきたいです」と意気込みます。町内の各種イベントにも積極的に取り組んでおり、芳賀さんの今後さらなる活躍が期待されます。



内閣総理大臣賞を受賞した芳賀さん

## 少年レスラー2人が優勝

### 第34回北日本少年少女レスリング選手権大会

4月30日に、宮古市民総合体育館で開かれた第34回北日本少年少女レスリング選手権大会で、山田レスリングスポーツ少年団(上野三郎代表)の山谷翔夢君(山田南小3年)と佐倉田悠介君(同4年)の2人が優勝に輝きました。

2人は、7月20日から、福岡県北九州市で開催される全国大会に出場します。

#### ◎22kg級で翔夢君が優勝

翔夢君は、優勝した感想を「すごうれしい」と笑顔で話します。得意技は相手の足首を手を使って固定するアングル。将来の夢はオリンピック選手とのこと。全国大会では、「優勝して家族にがんばっている姿を見せたい」と意気込んでいました。

#### ◎28kg級で悠介君が優勝

「自信はありました。優勝できてよかったです」と話すのは悠介君。得意技はがぶり返しと横崩しで、普段の練習ではスーパーリングに力を入れているそうです。夢は吉田沙保里選手のような選手になること。全国大会への意気込みを伺うと「1位を目指します」と力強く答えてくれました。



左から佐倉田悠介君、山谷翔夢君



# 田丁のわだこい

今月の題字 飯野 雄仁君 (大浦小3年)

## 稲作を通して食の大切さ学ぶ 織笠小児童が田植えを体験

5月29日、織笠小学校(鎌田達也校長)の3・4年生11人が田植え作業を体験しました。これは、児童に農業を通して、食の大切さを学んでもらおうと白石集落農業生産組合(越田正一郎組合長)の協力で行われているものです。越田さんが稲作について説明したあとに田植えはスタート。児童たちは、慣れない泥の足場に苦戦しながらも、一生懸命に苗を植えていきました。4年生の佐々木茉莉花さんは「田植えはことして2回目で、とても楽しかったです。私は来年できないけど、下の学年のみんなにはがんばってほしい」と感想を話してくれました。



## 新斎場工事安全祈願祭 最期にふさわしい場所へ

5月26日、柳沢地区・山田インター北側の建設地で山田町新斎場建設工事の安全祈願祭が行われました。神事には、関係者約40人が出席。佐藤町長は、「現在の斎場は、東日本大震災の影響もあり、老朽化が進んでいる。新斎場が、故人をしのび、人生終焉の場にふさわしい場所になることを期待します」とあいさつし、その後くわ入れを行いました。続いて、出席者による玉串奉奠が行われ工事の安全を祈願しました。

バリアフリー化や周辺環境に配慮した新斎場は来年4月の供用開始を見込んでいます。

## ヒマワリの種まきイベント 町を希望の花でいっぱい

6月18日、町民グラウンドで「希望の花を咲かせようプロジェクト」が行われました。これは、グレート小鹿さん(大日本プロレス所属)が、町内を希望の花でいっぱいしようとして主催したものです。4回目となる今回が最終回となりました。グレート小鹿さんは「今回で最後ですが、ヒマワリを見たら私を思い出してほしいです。今日はがんばりましょう」とあいさつ。町からは、感謝状が贈られました。その後の種まきには、近隣住民や復興事業者など約80人が参加。参加者が一つ一つ丁寧に種を植えたプランターは、町内各施設に届けられました。

